

CSR Report 2017

大林道路 CSR報告書

Contents

企業理念・経営規範	P1	社会から愛される企業	環境に配慮する企業
社長メッセージ	P2	各種地域貢献活動の報告	環境保全、品質安全向上の報告 P17
ルールやプロセスを大切に する企業		付加価値の高い ものづくりができる企業	会社概要 P18
CSRへの取り組み	P3	アスファルトフィニッシャー ホッパー部	
コーポレート・ガバナンス体制	P4	『特殊保温プレート』を開発／高耐久な グースアスファルト舗装「eグース」 P13	
		安全衛生方針	P14
トピックス		従業員が安心して働ける企業	
新名神高速道路		職場見学	P15
四日市舗装工事	P5	インターンシップ(就労体験)	P16

●対象組織 大林道路株式会社
 ●対象期間 2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで。一部それ以前からの取り組みや2017年度の活動も掲載)
 ●発行時期 2017年11月
 ●作成部署 CSR報告書作成委員会
 ●お問い合わせ先 大林道路株式会社 本店総務部 広報課

安心と安全を託せる企業として

当社は、企業理念を念頭において行動し、社会的な責任を果たすことがCSR活動の根幹であり、企業活動の礎であると確信しております。

「豊かな生活環境の創造」「地域社会との共生」「人間尊重の経営」の企業理念のもと、法令や社会規範を遵守し、高い倫理観と社会良識をもってコンプライアンス経営を推進し、企業価値を高め、社会的責任を果たしていく所存です。

事業活動につきましては、土木・道路舗装工事、建築工事のほか、太陽光発電施設の建設、インフラの維持・更新整備、合材事業に携わっております。今後は、様々な技術導入と技術開発にも注力し、多様な収益源を確保し、安定した企業経営を目指してまいります。

皆様の安心、安全を託せる企業となるべく努力いたしてまいります。



大林道路株式会社

代表取締役社長
福本 勝司

企業理念

豊かな生活環境の創造に向けて
地域社会と共に歩み
人間尊重の経営を行います

経営規範

1. 人々の期待に応え時代を先取りした技術力により
新たな価値を創ります
2. 想像力豊かな人を育て柔軟な組織のもとで
生き生きとした職場を創ります
3. 良き企業市民として社会と文化の発展に寄与します

ルールやプロセスを大切にする企業

地域社会と共に発展し、コミュニティの未来作りに貢献し、サステナブルな社会貢献活動を継続いたします。

CSRへの取り組み

大林道路のCSRは、企業理念を常に念頭に置き「豊かな生活環境の創造」「地域社会との共生」「人間尊重の経営」の実現を目指します。

大林道路のCSR活動に必要な第一歩とは「ステークホルダーに対する誠意ある企業活動」と考えています。大林道路のCSR活動はコンプライアンスを基本とし、これまでの企業活動に加えて説明責任や情報開示を企業自らの意思で行い、地域社会への積極的な働きかけを行うことが大切であると考えています。



大林道路は、コーポレート・ガバナンスを通じて内部統制していくことがコンプライアンス経営の根幹であり、健全な企業として発展していく上で不可欠な要素であると考えています。

その考えのもと、事業活動に対する説明責任や経営の健全性、効率性および透明性の向上をめざして、また正しい経営判断を行い、実行できるよう取締役会、経営会議、企業倫理委員会などで十分審議し、適宜、監査役会に報告し、適切な監査を受けています。

また、企業会計については、独立の立場である会計監査人から監査を受けています。

コーポレート・ガバナンス体制

内部統制体制／コンプライアンス

- 企業倫理綱領（2002年制定、2016年改正）は、企業理念、経営規範とともに大林道路の社員としての行動の基準となるべき指針により構成されており、従業員研修や社内会議等の場において反復教育を行い、周知徹底を図っています。
- 企業倫理遵守のための基本方針を策定し、定期的に企業倫理委員会を開催することで、企業倫理遵守の徹底を図っています。2016年度は、3回の委員会を開催しました。
- 経営の健全化を目的として、内部通報制度を設けています。通報内容については、直ちにその事実関係を調査し必要な処置をとっています。
- 内部監査担当部署による各部門の業務執行状況、コンプライアンスおよび財務報告に係る内部統制システムの監査を定期的に行っています。2016年度は、全店において実地監査を行いました。

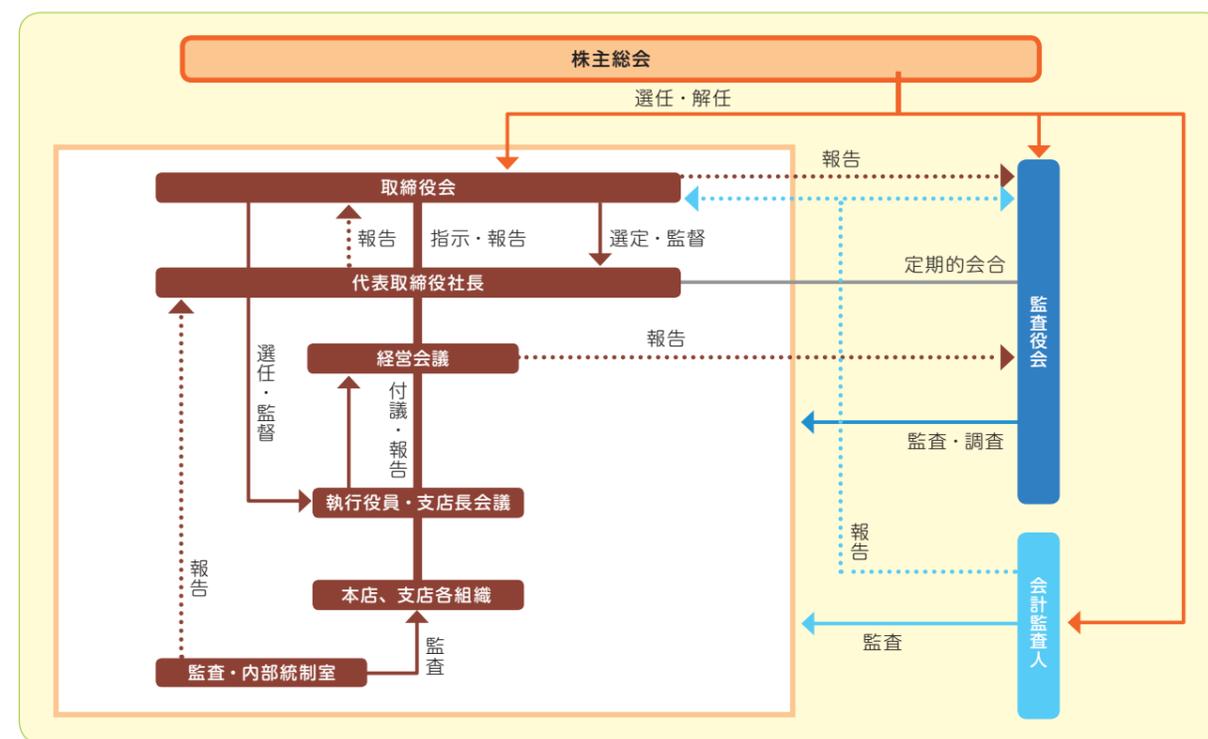
危機管理体制

- 危機管理対策規程を整備、運用し、危機を未然に防ぐとともに、万一発生した場合にも迅速かつ適切な対応ができるよう対策をとっています。
- BCP（事業継続計画）を策定し、自然災害など予期せぬ事態が発生した時にも事業が継続できるよう対策をとっており、お客様や地域住民への復旧支援、災害対応を実施できる体制をとっています。

情報管理体制

- 情報資産のセキュリティに関する基本方針を定め、緊急事態の発生に備えた予防対策を講じています。また、セキュリティ教育、不適切ソフトの調査、設問形式による従業員へのアンケート実施など、随時啓蒙活動を行っています。
- 個人情報・特定個人情報取扱規程を整備、運用し、個人情報などを適正に取り扱っています。
- 経営の重要事実に関して情報管理を行い、不正な取引が行われぬようインサイダー取引防止規程を整備、運用しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



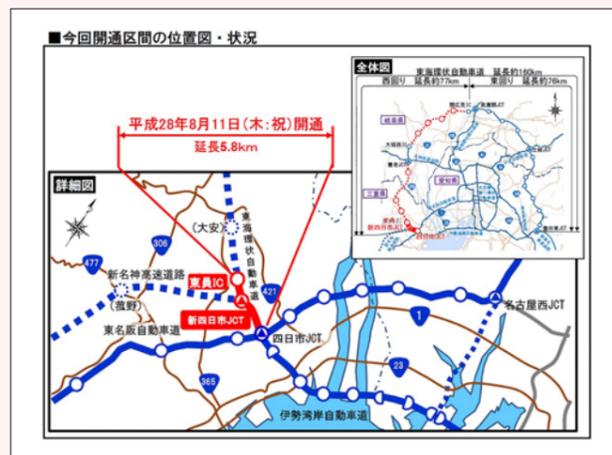
新名神高速道路 四日市舗装工事

新名神高速道路 四日市 JCT～新四日市 JCT 間は新名神の東端となる区間で、東名阪自動車道の四日市 JCT～亀山 JCT 間と、新名神の四日市 JCT～亀山西 JCT が並行するような格好となります。現在、新名神を使って名古屋エリアから大津、草津方面へ向かう場合、東名阪道を経由する必要がありますが、2018 年度に予定されている新四日市 JCT～亀山西 JCT 開通後は、東名阪道とのダブルネットワークが形成され、新名神を利用して関西へ行く場合は四日市 JCT から亀山西 JCT へ、三重県の南方や名阪国道へ向かう場合は東名阪道へとアクセスが分散できるようになるため、渋滞緩和に大きな期待が寄せられています。

一方の東海環状自動車道 新四日市 JCT～東員 IC 間は、東海環状道の西端部にあたります。新名神 四日市 JCT～新四日市 JCT との同時開通により、新名神、東名阪道、伊勢湾岸自動車まで、一気に接続することになりました。

本工事では、新名神及び東海環状道ともに一部の区間（四日市 JCT～新四日市 JCT～東員 IC）を部分開通させるもので、工事受注時の開通予定時期は、平成 28 年 3 月末日となっていました。しかし、平成 27 年 9 月の台風 18 号で工事中のり面が崩落し、安全対策として大規模な工事が必要となったことなどの理由で、先行工事からの引渡しが遅れていました。

大林道路は、本工事の共同企業体の構成会社である(株)佐藤渡辺とともに JV スタッフが一丸となり、工程の回復と短縮に主眼を置き、発注者とともに様々な協議を行い、平成 28 年 8 月 11 日に無事故で開通させることができました。



【新名神本線部】連続鉄筋コンクリート舗装施工状況



【東海環状線】アスファルト舗装施工状況

発注者の中日本高速株式会社名古屋支社様からは、様々な創意工夫をもって早期に工事を竣工した点が評価され感謝状をいただきました。

評価点については、両構成会社史上最高の96点をいただきました。



【新名神本線部四日市 JCT】完成写真全景



【新名神本線四日市 JCT 付近】受発注者合同記念撮影

概要

工事名
新名神高速道路 四日市舗装工事

工事場所

- ①高速自動車国道 近畿自動車道名古屋神戸線（新名神）
自) 三重県四日市市伊坂町 至) 三重県四日市市北山町
- ②一般国道 475 号 東海環状自動車道（東海環状）
自) 三重県員弁郡東員町 至) 三重県員弁郡東員町
- ③高速自動車国道 近畿自動車道名古屋神戸線（伊勢湾岸）
自) 三重県三重郡朝日町 至) 三重県四日市市伊坂町

工期

(当初) 平成 26 年 10 月 28 日～平成 28 年 7 月 18 日
(最終) 平成 26 年 10 月 28 日～平成 28 年 10 月 31 日

発注者

中日本高速道路株式会社名古屋支社

工事概要

総延長：8500m、土工延長：6600m、
橋梁延長：1900m、ジャンクション：2箇所、
インターチェンジ：1箇所

現地担当者の声



現場代理人
青山 博

本工事は、前段工事の引渡しが台風の影響で遅れたものの、開通日は、早期開通を要求される過酷な工事でした。当 JV は両構成会社ともスタッフ一丸となり、終始良い雰囲気と適度の緊張感を持続し工事を進めることができました。無事故で竣工できたこと、発注者様から感謝状をいただいたことなど、今回経験した様々のことが我々配属職員の誇りとなりました。

最後に、本工事を無事竣工するにあたり、ご指導とご協力をいただいた、NEXCO 四日市工事事務所ご担当者様、JV 両構成会社、前段工事の各施工会社様、協力会社一同様に深く感謝いたします。



監理技術者
水野 大輔



監理技術者
中河原 勝司



監理技術者
平林 憲士



監理技術者
村上 研二

社会から愛される企業

大林道路は、社会文化の発展を支援し、地域社会に寄与していきます。

各種地域貢献活動の報告

漁港環境保全における投石積み込みへの協力

活動場所

函館空港滑走路老朽化対策工事

担当者所属・氏名

現場代理人：大石 達也

監理技術者：松尾 輝巳

活動時期

平成 28 年 6 月～平成 28 年 12 月

活動概要

地元の漁港にある戸井漁業協同組合が実施する漁港環境保全のための投石積み込作業に協力するため、機械および作業員を提供することにより近隣施設の環境向上に努めたところ協同組合より感謝状をいただいた。



小学校グラウンド整備の実施

活動場所

稚内空港滑走路老朽化対策その他工事

担当者所属・氏名

現場代理人：伊藤 圭一

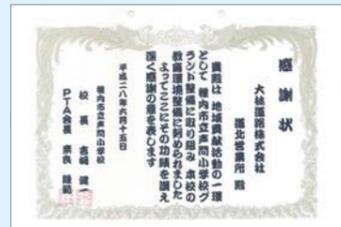
監理技術者：北野原 朋宏

活動時期

平成 28 年 4 月～平成 28 年 12 月

活動概要

稚内空港近隣の稚内市立声間小学校において学校環境の整備に協力したいと考え、グラウンドのトラック部分の整備を実施しました。この活動の結果、見た目もきれいな景観とトラック性能を確保することができ小学校より感謝状をいただきました。



就職活動中の学生を対象とした現場見学会の開催

活動場所

平倉地区舗装工事

担当者所属・氏名

現場代理人：千葉 良 監理技術者：鎌田 真由子

活動時期

平成 27 年 3 月～平成 28 年 6 月

活動概要

建設業に就職を希望している地元大学生を対象に現場見学会を開催しました。道路舗装会社の日常業務の紹介やトータルステーションを使用した測量業務の説明を行いました。(参加大学：秋田大学、北里大学)



中学生による職場体験学習

活動場所

釜石アスファルト混合所

担当者所属・氏名

釜石大槌アスファルト混合所 桑田 正

活動時期

平成 28 年 8 月～平成 28 年 9 月

活動概要

岩手県大槌町立吉里吉里中学校および大槌中学校の生徒を職場体験生として受け入れました。体験の内容は、アスファルト工場見学、舗装現場見学、舗装材料の品質管理や舗装の体験などです。この試みは、3年目を迎え地域との交流を深めることに役立っており、今後も継続して実施する予定です。



一般車両の救助

活動場所

西湘バイパス越波防止柵設置工事

担当者所属・氏名

現場代理人：下野 俊志 監理技術者：狩野 圭介

活動時期

平成 27 年 6 月～平成 29 年 3 月

活動概要

工事区域においてタイヤがバーストした状態で供用車線を走行していた一般車両を発見したため、直ちに交通規制内に誘導しタイヤ交換などの処置を行いました。事故発生を防止することができ、車の所有者の方にも大変喜んでいただけました。



平成28年度 第1回 千代田区一斉清掃

活動場所

皇居周辺道路

担当者所属・氏名

関東支店 技術部 小笠幸雄

活動時期

平成 28 年 6 月

活動概要

皇居周辺道路（内堀通りの一部と代官町通り）皇居側歩道等（5.5km）の一斉清掃を行いました。



国際協力機構（JICA）の視察団に舗装技術を紹介

活動場所

大林道路株式会社 技術研究所 西日本試験室、門真アスコン

担当者所属・氏名

大阪支店 技術部 石川 義人

活動時期

平成 28 年 8 月

活動概要

国際協力機構(JICA)の視察団を受け入れて、アスファルト舗装に関する講義・実習とプラント施設の見学を行いました。



地域住民の方を対象とした現場見学イベントの実施

活動場所

新名神高速道路 四日市舗装工事

担当者所属・氏名

現場代理人：青山 博 監理技術者：中川原 勝司

活動時期

平成 26 年 10 月～平成 28 年 9 月

活動概要

施工中の工事現場において高速道路がどのように建設されていくか、地域住民の方々にご覧いただき理解を深めていただくと共に、コミュニケーションの場として貢献いたしました。



遊水地クリーン作戦への参加

活動場所

麻機遊水地（第4工区）

担当者所属・氏名

静岡アスファルト混合所 大田 信治

活動時期

平成 28 年 5 月 18 日～21 日



活動概要

「自然豊かな遊水地」、「市民の憩える遊水地」を目指して、麻機遊水地第1工区、第3工区、第4工区の一斉清掃を行いました。事前に草刈りして集めた草を当日参加者にて収集し、トラックに積み込み清掃工場まで運搬しました。



環境保全啓発活動およびカブトムシ幼虫の寄贈

活動場所

岡山東部保守工事

担当者所属・氏名

現場代理人・監理技術者：小井住 孝義

活動時期

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月



活動概要

大林道路が施工担当しております岡山東部保守工事におきまして、発注元の施工担当である中国地方整備局岡山維持出張所の入り口にスペースをお借りして本工事において実施した環境保全活動への取り組みを紹介し、啓発活動を行っております。保守工事で発生した材木類は、従前は焼却処分しておりましたが、焼却処分を行わないこととし、発生した材木類をチップ化した上で一部を腐葉土として再利用するほか、カブトムシの産卵床に用い毎年多数の幼虫が発生するようになりました。焼却処分を行わないことによりこの8年間に累計851 tのCO2の発生を抑制し、地球環境保全に貢献することが出来ました。また発生したカブトムシの幼虫達は、平成20年より毎年、小学校へ寄贈し小学生たちに大変喜んでいただいております。



周辺地域の環境整備事業による地域貢献

活動場所

浜田・三隅道路西村地区舗装工事

担当者所属・氏名

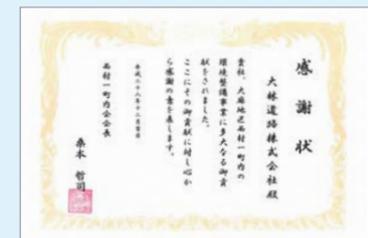
現場代理人：藤本 隆二 監理技術者：山本 紀彦

活動時期

平成 28 年 3 月～平成 28 年 12 月

活動概要

近隣住民の方の要望を聞き取り、ゴミステーションの設置や集会所の舗装整備を行いました。行政機関立ち会いの下、自治会より感謝状をいただきました。



工業高校における 再生コンクリート舗装の試験施工

活動場所

岡山県笠岡市 笠岡工業高校

担当者所属・氏名

技術研究所 杉本 浩一、小澤光一、渡邊 満葉
本店 藤田 義憲、澤田 昭吾

活動時期

平成 28 年 6 月

活動概要

工業高校の授業の一環として、座学としての講義（舗装の基本、道路技術者の仕事、舗装技術など）、実習として試験施工時における材料の製造、品質管理および施工を体験していただきました。



市内の中学生によるプラント見学

活動場所

香川アスファルト混合所

担当者所属・氏名

香川アスファルト混合所 中嶋試験主任

活動時期

平成 28 年 9 月、11 月

活動概要

高松市立香川第一中学校および香川県立石田高校の生徒の皆さんを招いて、アスファルトプラント・リサイクルプラントの見学を実施し、製造工程の見学や、試験実習による品質管理を体験してもらいました。



工事箇所周辺の清掃活動の実施

活動場所

平成 27 年度鳴門管内舗装補修工事（その 2）

担当者所属・氏名

現場代理人・監理技術者 宮部 康彦

活動時期

平成 28 年 3 月～平成 29 年 12 月

活動概要

工事箇所周辺の清掃や、普段清掃がしづらい路肩または中央分離帯などにある雑草等を除去し、道路の美化に努めました。インターチェンジでは見渡せる範囲にある側溝や法面を清掃し、本線では排水施設等のごみや雑草を除去し、一般利用者の方が快適に利用できるよう努めました。



日本道路建設業協会沖縄支部 道路美化活動への参加

活動場所

国道 58 号、331 号、329 号（旭橋交差点～垣花、モノレール壺川駅）

担当者所属・氏名

沖縄営業所 具志 幸太

活動時期

偶数月の第 3 火曜日

活動概要

道建協沖縄支部主催の月 1 回の道路清掃ボランティア活動を全会員を 2 グループに分け、隔月当番制で実施しました（国道 58 号と 331 号の分岐点付近の上下歩道約 5km の清掃）。毎回大量のゴミを収集しており、那覇空港から市街へ向かう国道の美化に貢献しています。



熊本地震への対応

活動場所

九州支店 熊本営業所・熊本アスファルト混合所

担当者所属・氏名

熊本アスファルト混合所 田中 裕樹

活動時期

平成 28 年 4 月

活動概要

平成 28 年 4 月 14 日以降に発生した熊本地震において、プラント周辺の地区は約 2 週間にわたり断水しました。その間、生活用水の提供やシャワー室を設置し、被災した方々への支援を行いました。



付加価値の高いものづくりができる 企業

大林道路の品質の維持向上、および安心・安全な環境を創造するための技術を紹介します。

アスファルトフィニッシャ ホッパー部『特殊保温プレート』を開発

アスファルト舗装では、アスファルト混合物をアスファルトフィニッシャのホッパーに受けて敷きならし、ローラで転圧するのが一般的な施工方法です。外気温の低い寒冷期においては、ホッパー部は著しく冷却され、アスファルト混合物の急激な温度低下を招きます。

そこで大林道路では、ホッパー部の『特殊保温プレート』を開発しました。

この『特殊保温プレート』はステンレス鋼と特殊な断熱材を組み合わせ、真空に近い構造となっています。この構造により荷受けしたアスファルト混合物の温度低下が抑制されて混合物の品質が維持されると共に、一切の動力源を使用しないため環境への影響もありません。

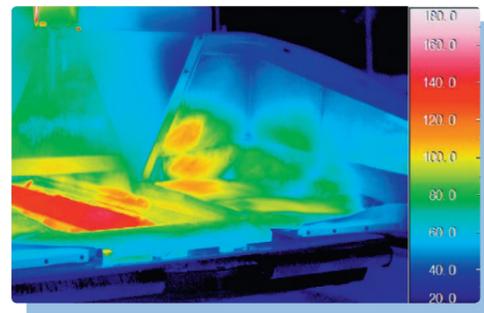
『特殊保温プレート』を当社保有アスファルトフィニッシャの全てに標準装備し、特殊な中温化合材や夜間および冬期の施工における品質の向上、環境保護と安全性の向上等への取り組みに活用していきます。

本技術は平成28年度に国土交通省の公共工事における新技術活用システム (NETIS) に登録されました。

技術名称：特殊保温プレート
登録番号：KT-160073-A



特殊保温プレート装着ホッパー



保温状況 (特殊保温プレート)

高耐久なグースアスファルト舗装「eグース」

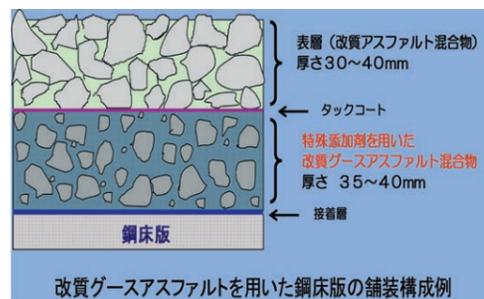
従来より、たわみ追従性と水密性に優れたグースアスファルト舗装 (硬質アスファルト使用) が鋼床版上の橋面に用いられてきました。しかしながら、施工時の強い臭気によって周辺環境への悪影響が懸念がありました。加えて近年では天然の硬質アスファルトの材料調達が困難になってきたこともあり、大林道路では、材料の調達が容易で、かつ、施工時の発生臭気を低く抑え、舗設必要温度を硬質アスファルト使用の従来のグースアスファルトよりも低く抑えることが出来る、環境にもやさしい改質グースアスファルト舗装を開発いたしました。

CO₂の削減にも貢献する当社「eグース」は各地の鋼床版上橋面舗装に採用されております。

●実績 累計 24,000m² (2017年4/1現在)



施工状況



改質グースアスファルトを用いた鋼床版の舗装構成例

全ての事業場で法令を遵守し、労働災害の防止および安全衛生水準の向上に努めます。

安全衛生方針

安全衛生スローガン

繰り返し型労働災害、公衆災害および交通事故の根絶
～気持ちを一つに～

安全衛生目標

① 災害抑制目標

- 死亡・重大災害発生 ゼロ
- 労働災害発生件数 40件以下
(内、休業4日以上 5件以下)
- 公衆災害発生件数 30件以下
- 交通事故発生件数 20件以下

② 安全目標

- 不安行動・不安全状態による労働災害の防止
- アスファルト混合所での事故・労働災害の防止
- 不注意による公衆災害の防止
- 交通事故の防止

③ 衛生目標

- 社員の健康状態の把握、異常所見者に対する保健指導の徹底、メンタルヘルス対策
- 協力会社従業員の健康状態の把握
- 職業性疾病 (特に熱中症) の予防
- 現場、混合所の作業環境の改善

安全衛生活動

労働安全衛生マネジメントシステム (OHSMS) の実施

OHSMSは労働安全衛生マネジメントシステム (Occupational Health & Safety Management System) の略です。

安全衛生計画のPDCAを常に回すとともに、安全衛生に関する危険有害要因を特定し、リスク評価及びリスク低減措置を実施することにより危険感受性を高め、安全衛生水準を向上します。

外部認定機関による認定も受けています。



安全パトロール (安全衛生管理のレベルアップ)

全支店において、不安全行動、不安全状態による労働災害および公衆災害を撲滅するため、作業の安全ポイントが現場に行き渡り、職場の衛生環境が保たれているかを安全パトロールで確認、指導します。



また、事故災害の多発する年末年始、年度末など定期的に経営者自らが現場に足を運び、安全衛生水準の向上に努めます。



交通事故防止対策

発生率の高い若年者の交通事故を根絶するため、運転支援装置装着車とテレマティクスサービスの導入を段階的に実施し、追突事故の防止と運転マナーの向上を図ります。



また、新入職員に対しては、安全運転教育を徹底し交通事故防止に努めます。



安全ニュースの発行

事故・災害事例や関係法令の改正など労働安全衛生に関する情報を「安全ニュース」として、わかりやすく発信し、事故の再発防止とコンプライアンス意識の向上を図ります。
(28年度 年間51号発行)



従業員が安心して働ける企業

毎年多くの学生に工事、製造工場の見学会を実施し、職業選択における情報を提供しています。

職場見学



大正アスファルト混合所にて



静岡営業所管轄工事にて

実際の現場を見ることで、今後の学業に深みが増します。新たな気づき生まれ、その気づきから生まれた質問は本質をついた内容が多く、質問を受けた我々職員が気付かされることもあります。学生、職員の双方にとって貴重な体験であり、今後も継続していきます。



参加した学生の声

●仕事の内容や、勤務している方々が生き活きと働いている姿を知ることができました。外部からでは触れることのできない貴重な体験をさせて頂き、本当に感謝しております。

●作業服を着たり、現場に行くことは初めてでもよい機会になりました。社員の方とお話をすることもでき、雰囲気良く伝わりました。

大林道路で就労体験をすることにより、より深く建設業界の仕事に触れてもらいます。

インターンシップ(就労体験)



大林道路の職員だけではなく、協力会社の職員とも対話し、チームとして現場を作り上げていく過程に携わります。

就労体験を通じて、建設業とは「どのような仕事なのか?」「社会的な役割をどのように担っているのか?」を学んでもらいます。



平成28年度の現場見学及びインターンシップの回数

現場見学
24回 62名参加
インターンシップ
9回 9名参加
合計
33回 71名参加

参加した学生の声

●体験することでイメージしていたことだけでなく、「現場でのコミュニケーションの大切さ」や、「作業の流れ」などを学ぶことができ、非常に充実した時間となりました。

●体験を通じて仕事の難しさや厳しさを改めて実感しました。

環境に配慮する企業

大林道路は、社会からの信頼に応え、豊かな地球環境の保全に努めています。

環境保全、品質安全向上の報告

環境方針

私達は地球環境保護への取り組みとして、地球を汚染から守り、資源の枯渇に配慮し、社会から信頼される会社を目指します

品質方針

私たちは確かなものづくりにより、顧客・社会からの信頼に応えます

2017年度 環境目標

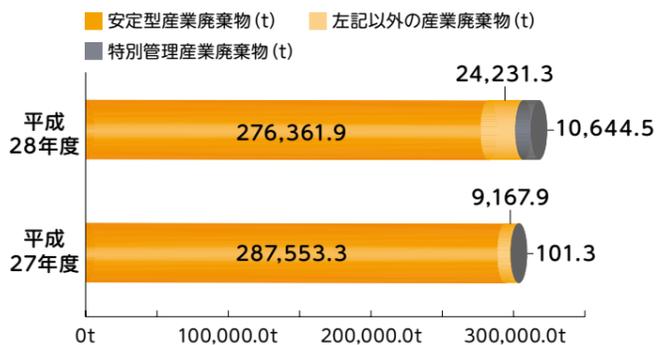
ICT等の活用により、環境負荷を低減する



温室効果ガスの削減状況

年度	部門名	エネルギー 使用量 (kl)	二酸化炭素 発生量 (t)
平成27年度	事務所	788	1,690
	合材製造	20,538	49,087
	中間処理	1,816	4,255
	計	23,142	55,032
平成28年度	事務所	789	1,664
	合材製造	19,774	48,076
	中間処理	1,689	3,616
	計	22,252	53,356

廃棄物の削減状況



環境と品質に配慮したアスファルト混合所

九州支店 大分アスファルト混合所

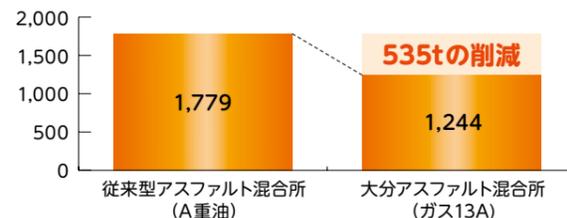
平成28年5月に移転した大分アスファルト混合所は環境負荷を低減する環境対応型のアスファルトプラントとして脱臭装置や都市ガス燃料、太陽光発電パネルを導入すると共に、当社の熱環境改善技術を使用した景観舗装（「涼量」「オークペブル」「グラスパーク」「IRガード」）を敷地内の随所に取り入れており、高さ8mの外壁の周辺の緑化と併せて地域の景観にも配慮した施設です。

また、アスファルトプラントのサイロ正面には3R（Reduce発生抑制・Reuse再使用・Recycle再資源化）推進協議会のご協力を得て「3R」をデザインしたキャンペーンマークを掲げております。

安全第一で高い品質の合材を迅速に提供し、大分県の発展に貢献できる地域密着型の混合所を運営いたします。



平成28年度Co2排出量 (t)



大林道路の事業内容、財務状況などを紹介します

大林道路は、1933年の創立以来、道路建設を基軸とした長い歴史に培われた技術により、人々の生活に密着した道路を核に空港・港湾、通信情報施設・下水道、病院・学校、スポーツレジャー施設・公園、工業や商業の各種施設など社会インフラの整備や豊かな生活環境の実現に貢献してまいります。

会社概要

- 商号 大林道路株式会社
OBAYASHI ROAD CORPORATION
- 本店所在地 〒101-8228
東京都千代田区猿樂町2-8-8
住友不動産猿楽町ビル
Tel:03-3295-8860
- 代表 代表取締役社長 福本 勝司
- 創立 1933年(昭和8年)8月26日
- 資本金 6,293百万円(平成29年3月31日現在)
- 従業員数 1,054名(平成29年3月31日現在)
- 主な事業領域 1. 道路工事、舗装工事、造園、敷地造成工事、
上下水道工事その他の土木工事及び建築工事
2. アスファルト合材等の製造及び販売
3. アスファルト及び
コンクリート廃材の中間処理業務
- 建設業許可 国土交通大臣許可(特-29) 第2523号
- 建設コンサルタント登録 建26 第4207号 道路部門
- 一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第60009号
大阪府知事登録(二) 第15214号
- 宅地建物取引業許可 国土交通大臣(7) 第4206号

事業所一覧

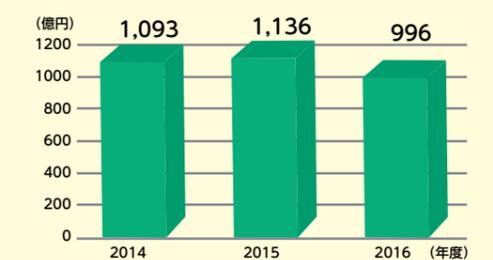
- 関東支店 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-20
Tel 03-3296-6680
- 中国支店 〒730-0051
広島市中区大手町3-7-2
Tel 082-243-1966
- 大阪支店 〒530-0047
大阪市北区西天満1-2-5
Tel 06-6360-7110
- 九州支店 〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-2-1
Tel 092-432-0884
- 北海道支店 〒060-0001
札幌市中央区北一条西2-9
Tel 011-241-1828
- 四国支店 〒760-0007
高松市中央町11-11
Tel 087-833-3729
- 東北支店 〒980-0014
仙台市青葉区本町2-5-1
Tel 022-225-4437
- 技術研究所 〒204-0011
東京都清瀬市下清戸4-6-40
Tel 042-495-6800
- 北信越支店 〒950-0914
新潟市中央区紫竹山1-5-6
Tel 025-243-6807
- 機械センター 〒346-0035
埼玉県久喜市清久町6-5
Tel 0480-23-6100
- 中部支店 〒460-0002
名古屋市中区丸の内2-18-25
Tel 052-222-5161

財務状況

受注高



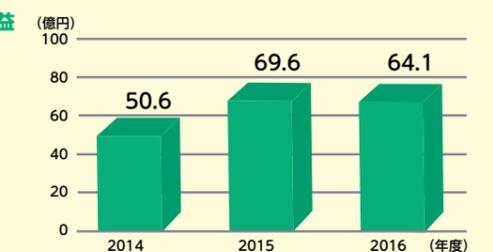
売上高



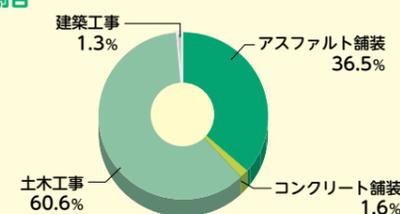
経常利益



当期純利益



工種別受注割合 (2016年度)



発注者別受注割合 (2016年度)

